



# 美しい 県土づくりNEWS



岩手県 県土整備部  
手づくり広報誌第 104 号  
平成 25 年 3 月 29 日発行  
編集 県土整備企画室

## 目次

- 2 宮古盛岡横断道路「築川道路」開通！
- 4 特集 復興事業の現状  
まちづくりの現状  
災害公営住宅整備事業の現状  
三陸復興道路整備事業の現状
- 8 平成 24 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」で優秀賞（事務次官賞）を受賞！！
- 10 『復興県土づくりシンポジウム』を開催（続編）



## 宮古盛岡横断道路「築川道路」開通！

～ 震災からの復興に大きな弾み ～

平成 25 年 3 月 10 日、宮古盛岡横断道路「築川道路」の開通式を行い、同日 15 時に開通しました。

築川道路（延長 6.7km）は、築川ダムの付替道路として平成 8 年に事業着手し、17 年の月日を経て開通を迎えました。式典では、太田国土交通大臣や坂井国土交通大臣政務官をはじめ、多くの来賓や地権者等の関係者に御出席いただき、盛大に行われました。

宮古盛岡横断道路は、盛岡市と宮古市を結ぶ本県の大動脈の一つであり、今回の開通は震災からの復興に向けて大きな弾みになるとともに、産業振興などへの効果が見込まれています。



# 宮古盛岡横断道路「築川道路」開通!

～ 復興道路宮古盛岡横断道路で初めての開通～

## 盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所 道路建設課

平成 25 年 3 月 10 日、一般国道 106 号・宮古盛岡横断道路「築川道路」が開通しました。

平成 8 年の事業着工から 17 年。東日本大震災津波以降、復興のリーディングプロジェクトとして事業を加速させ、竣工を約 2 ヶ月前倒しし、震災から 2 年を前にしての開通となりました。

開通式は同日、盛岡市川目地内で開催。太田国土交通大臣、達増知事、谷藤盛岡市長をはじめ、国、県、盛岡市、宮古市、施工業者及び地権者等の関係者約 100 名が出席し、「築川道路」の開通を祝いました。

達増知事が「築川道路の開通で災害時の防災力強化や物流の効率化など大きな効果があり、本県復興に弾みがつく。」と挨拶し、その後、テープカット（表紙写真）及びパレードを行いました。パレードでは沿道に集まった約 60 名の地域住民と共に開通を喜びました。



達増知事式辞



開通を祝う地域住民。共に開通を喜びました!



築川道路 築川大橋上空写真

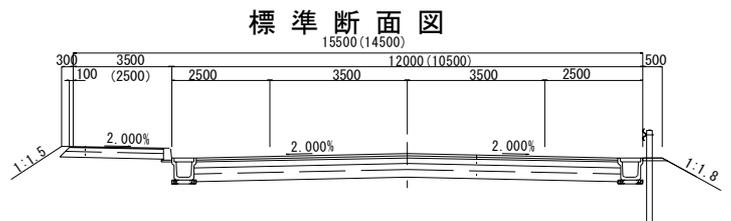
【「築川道路」の概要】

一般国道 106 号築川地区は急峻な谷地形の河川沿いにあり、地形的制約のため幅員狭小・線形不良であることから交通事故が発生しやすく、落石等の危険区間などでもあったことから、抜本的な改良が求められていました。そのため、平成 7 年 8 月に地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」の延長約 6.7km の区間が「築川道路」として整備区間に指定され、翌年の平成 8 年には、築川ダム建設事業の付替道路として事業着手しました。

県では、東日本大震災津波の発災後、復興計画において一般国道 106 号を復興道路に位置づけ、「築川道路」の整備を急ピッチで行って来ました。

今回、震災から 2 年が経過するのを前に、復興道路「宮古盛岡横断道路」として初めて開通したものです。

- 路線名： 一般国道106号
- 区間： 盛岡市築川～盛岡市川目
- 延長： 約6.7km(全線開通)
- 幅員： 車道 7.0m 歩道3.5～2.5m
- 主要構造物： 橋梁 14箇所 延長 約2.3km  
トンネル 4箇所 延長 約1.0km
- 事業期間： 平成8年度～平成25年度



【おわりに】

今回、宮古盛岡横断道路「築川道路」の開通を迎えましたが、復興道路の大部分は、事業に着手したばかりであり、被災した沿岸を支援するための復興道路の整備はこれからが本番です。

今回の「築川道路」開通を弾みとし、復興事業を加速させるべく、なお一層、関係機関と連携して事業を進めていきます。

# 復興事業の現状

## ～復興加速年の取組～

「復興元年」と位置づけた平成24年は、東日本大震災津波からの復興を軌道に乗せるべく、復興道路や防潮堤、災害公営住宅などの本格的な整備に向けた取組を着実に進めてきました。

復興計画で基盤復興期間の最終年となる平成25年は、「復興加速年」と位置付け、これら復旧・復興事業を更に加速させていくこととしています。

本号では、まちづくり、災害公営住宅整備事業及び三陸復興道路整備事業の現状についてお知らせします。



大槌町 土地区画整理事業認可書 交付式  
町方地区、安渡地区、赤浜地区、吉里吉里地区



災害公営住宅建設工事（釜石市平田地区）



宮古盛岡横断道路「築川道路」開通！（盛岡市）



県事業で初めて完成した災害公営住宅（野田村）

# 復興まちづくりの現状

東日本大震災津波により被害を受けた沿岸 12 市町村では、住民の意向を踏まえながら、まちづくり計画を策定し、事業を行っています。  
 平成 24 年度は、都市計画決定や国土交通大臣同意を得るための計画策定等が中心となりましたが、一部の地区では工事に着手しました。  
 平成 25 年度は、各地で「復興の槌音」を響かせることができるよう、引き続き市町村の事業実施に向けた支援を続けていきます。

## まちづくり（面整備）事業の概要と事業の特徴



①土地区画整理事業	被災した市街地の復興を図るため、計画的に宅地と公共施設を一体的に整備します。
②津波復興拠点整備事業	被災した地域の復興を先導する拠点とするため、住宅、公益施設、業務施設等の機能を集約させた市街地を緊急に整備します。
③防災集団移転促進事業	災害が発生した地域又は災害危険地域等のうち、住民の居住に適当でないと認められる区域内にある住居の集団移転を促進します。

## まちづくり事業の予定地区数（平成 25 年 3 月 27 日時点）

### ①土地区画整理事業

地区数	うち都市計画決定済み	うち事業認可済み	うち着工
18 地区	15 地区	11 地区	2 地区

### ②津波復興拠点整備事業

地区数	うち都市計画決定済み	うち事業認可済み	うち着工
9 地区	3 地区	2 地区	0 地区

### ③防災集団移転促進事業

地区数	うち大臣同意済み	うち着工
54 地区	54 地区	6 地区



野田村高台移転用地造成工事及び復興関連道路改良工事 安全祈願祭

注) 地区数は、追加や統廃合等により変更となる可能性があります。

# 災害公営住宅等整備事業の現状

県内では、沿岸 11 市町村（普代村を除く）において、県建設 2,821 戸、市町村建設 2,818 戸の計 5,639 戸を建設する予定です。

平成 24 年度に、県と市町村が締結した建設と管理に関する覚書に基づき、県が主導的に建設を進め、工事完了後の入居者選定などの管理を市町村に移管することにより、地域コミュニティの維持・形成にも配慮した住宅の供給を進めることとしています。

## 市町村別の建設予定戸数

市町村名	県建設	市町村建設	計
洋野町	-	4	4
久慈市	-	11	11
野田村	30	94	124
田野畑村	-	107	107
岩泉町	-	51	51
宮古市	377	354	731
山田町	456	246	702
大槌町	500	480	980
釜石市	198	923	1,121
大船渡市	560	248	808
陸前高田市	700	300	1,000
合計	2,821	2,818	5,639

## 建設と管理に関する覚書

【建設】県が主導的役割（建設スピード）

県 2,821 戸

市町村 2,818 戸

県が管理を行った場合、以下の課題が想定

- ・県営であるため、入居募集の範囲が広域
- ・コミュニティに配慮した入居者選定が困難

県が建設した一部を市町村に譲渡 覚書

【管理】市町村が中心（地域コミュニティ形成）

県 1,399 戸

市町村 4,240 戸

## 県整備の工事状況

市町村名	団地	戸数	着工	完成(予定)
野田村	門前小路第1団地	8	H24.11.15	H25.3.25
大槌町	吉里吉里	34	H24.10.24	(H25.8頃)
釜石市	平田	126	H24.9.13	(H25.12頃)
	野田	32	H24.9.13	(H25.7頃)



工事状況（釜石市平田）



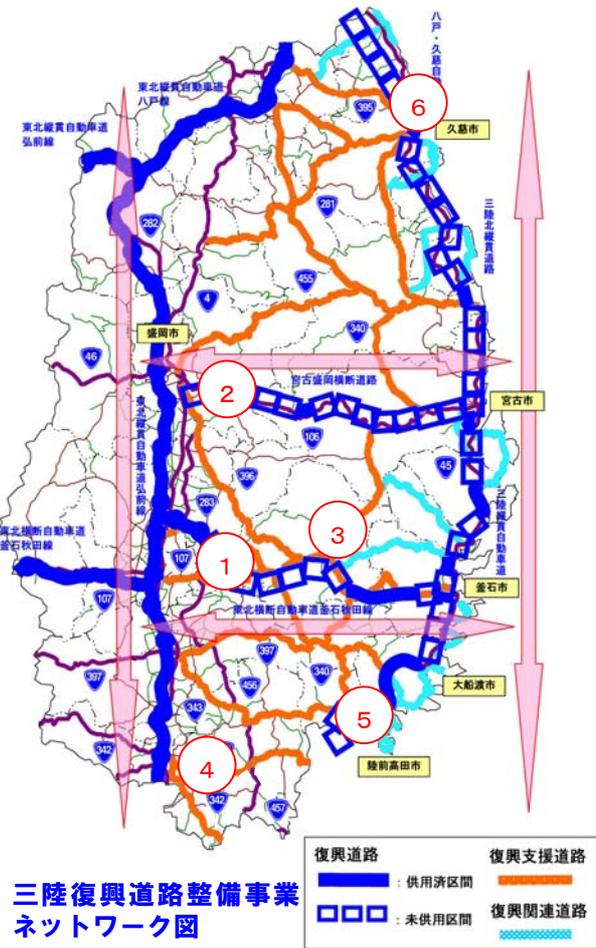
平成 25 年 3 月 25 日 県事業で初めて完成した災害公営住宅（野田村門前小路第 1 団地）

# 三陸復興道路整備事業の現状

三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保するため、災害時等における確実な緊急輸送や代替機能を確保するとともに、水産業等の復興を支援する災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築します。

平成 24 年度は、復興道路である東北横断自動車道釜石秋田線「宮守～東和」や宮古盛岡横断道路「築川道路」をはじめ、復興支援道路等も各地で開通しました。平成 25 年度も復興のリーディングプロジェクトとして、着実な整備を進めていきます。

## 平成 24 年度主な供用区



三陸復興道路整備事業ネットワーク図



①東北横断自動車道釜石秋田線「宮守～東和」



②宮古盛岡横断道路「築川道路」



③国道 340 号「土淵バイパス」



④国道 284 号「真滝バイパス」



⑤県道長部漁港線（長部）



⑥県道侍浜夏井線「本波」

<b>復興道路 (5 路線)</b>	三陸沿岸地域の縦貫軸と内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等
<b>復興支援道路 (14 路線)</b>	内陸部から三陸沿岸各都市にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路
<b>復興関連道路 (23 路線)</b>	三陸沿岸地域の防災拠点（役場、消防等）や医療拠点（二次・三次救急医療施設）へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路

### 復興道路の整備効果

<b>時間短縮</b> 沿岸各都市間、内陸と沿岸の所要時間が短縮	<b>災害に強い道路の確保</b> 災害時でも安全で安心な通行が可能に
<b>渋滞解消 (交通の分散)</b> 交通量が分散し、渋滞の改善効果が期待	<b>その他の効果</b> 走行経費の削減、交通事故の減少、走行快適性の向上など

平成24年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」で  
**優秀賞(事務次官賞)を受賞!!**

～土砂災害から人命・財産を守るために～

砂防災害課

国土交通省では、例年、土砂災害防止月間(6月1日～6月30日)行事の一環として、全国の小・中学生の皆さんから土砂災害やその防止に関する絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰しています。

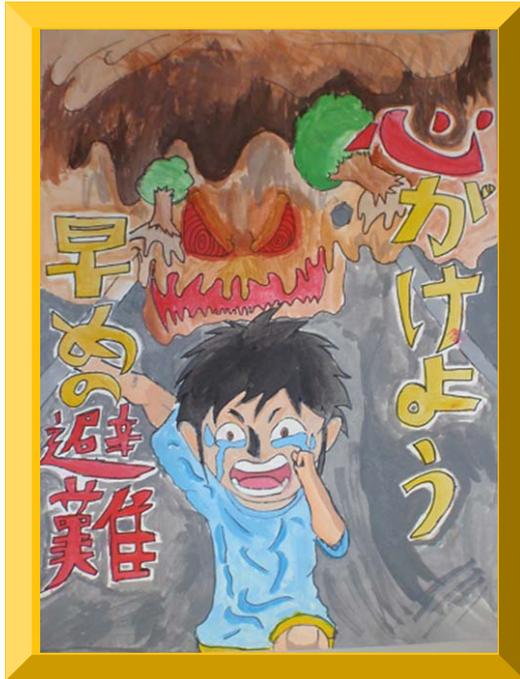
今年度、本県では、小・中学校あわせて25校から164点の応募があり、応募作品の中から各部門の優秀作品を国土交通省に推薦したところ、2作品が優秀賞(事務次官賞)に選ばれました。あわせて、岩手県における入賞者についても次のとおり決定しました。

国土交通省審査入賞者

【絵画(小学生)の部】	全国応募総数1801点				
<b>優秀賞(事務次官賞)</b>	一関市立室根西小学校	5年	熊谷希望	さん	
【絵画(中学生)の部】	全国応募総数1609点				
<b>優秀賞(事務次官賞)</b>	八幡平市立西根中学校	3年	工藤千穂	さん	

岩手県審査入賞者

【絵画(小学生)の部】					
<b>優秀賞</b>	奥州市立水沢小学校	5年	仲地紀迪	さん	
<b>優秀賞</b>	大槌町立大槌北小学校	5年	中嶋翔太	さん	
<b>特別賞</b>	滝沢村立一本木小学校	1年	小山田望々花	さん	
<b>特別賞</b>	北上市立黒沢尻北小学校	4年	清川葉月	さん	
<b>特別賞</b>	北上市立黒沢尻北小学校	5年	高橋大翔	さん	
<b>特別賞</b>	北上市立黒沢尻北小学校	6年	鈴木櫻果	さん	
【作文(小学生)の部】					
<b>最優秀賞</b>	滝沢村立柳沢小学校	3年	安保翔太	さん	
<b>特別賞</b>	滝沢村立柳沢小学校	3年	山下直輝	さん	
<b>特別賞</b>	滝沢村立柳沢小学校	4年	藤原峻	さん	
【絵画(中学生)の部】					
<b>特別賞</b>	北上市立和賀東中学校	2年	門屋翔太郎	さん	
【作文(中学生)の部】					
<b>特別賞</b>	花巻市立矢沢中学校	2年	藤本玲奈	さん	



【絵画（小学生）の部】  
優秀賞（事務次官賞）を受賞した  
熊谷さんの作品



【絵画（中学生）の部】  
優秀賞（事務次官賞）を受賞した  
工藤さんの作品



優秀賞（事務次官賞）を熊谷さんへ伝達



優秀賞（事務次官賞）を工藤さんへ伝達



県最優秀賞を安保さんへ伝達

優秀賞（事務次官賞）を受賞された熊谷さん、工藤さん及び県最優秀賞を受賞された安保さんへ、平成25年3月11日（月）から12日（火）にかけて、それぞれの学校において賞状と副賞を贈呈しました。

**受賞された皆さん、おめでとうございます！**

# 『復興県土づくりシンポジウム』を開催！（続編）

県土整備企画室

平成 25 年 2 月 7 日から 8 日にかけて、『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました。先月号で講演及び応援職員による発表概要を紹介しましたが、今回は本県職員の発表概要を報告します。

## 国際リニアコライダー（ILC）について 政策地域部政策推進室 大久保主任主査



大久保義人主任主査

県では、東日本大震災津波からの復興の象徴として、国際リニアコライダー（ILC）の誘致を目指していますが、政策推進室の大久保主任主査からは、本県の取組状況等について発表がありました。

ILC を核とした東北の将来ビジョンや ILC を東北で実現する意義をはじめ、国際科学技術研究圏域の概要として、中核研究拠点や交流居住地区のイメージなどについて説明があり、聴講者が ILC をより身近に感じられる発表となりました。

## 下水汚泥焼却灰と戻りコンクリートを利用した路盤材の開発 下水環境課 佐藤技師



佐藤佳之技師

下水環境課の佐藤佳之技師は、下水汚泥の約 7 割を占める汚泥焼却灰と建設現場で発生する戻りコンクリート（出荷後、アジテータ車内に残り、帰社する生コンクリート）の 2 つ廃棄物を混合し、路盤材を開発する実験結果等について発表しました。

度重なる実験結果から、混合固化物が路盤材として利用可能との結果を示すとともに、今後、被災地で多量に発生する戻りコンクリートとガレキ焼却灰の有効活用の可能性も提案しました。

## 中尊寺通りにおける景観に配慮した電線地中化と歩車共存の道路計画について 一関土木センター 本間主査



本間崇志主査

平成 23 年 6 月に平泉の文化遺産が世界遺産に登録されましたが、一般県道平泉停車場中尊寺線「中尊寺通り」の電線地中化は、この世界遺産の価値をより一層向上させる効果が期待されます。

一関土木センターの本間崇志主査は、景観整備の方針として、参道らしい“奥性”の演出、快適に歩行する 3 地区の“連続性”、適切な“お休み処”等を示したうえで、舗装や道路照明等の各施設の整備方針について説明しました。

## 田瀬大橋の吊材損傷と応急復旧について 花巻土木センター 川崎主任



川崎努主任

平成 24 年 1 月、一般国道 283 号田瀬大橋の吊材が破断し、通行規制を余儀なくされました。同路線は花巻市と釜石市を結ぶ幹線道路で、県の復興計画で復興支援道路に位置づけている路線です。

花巻土木センターの川崎主任は、この吊材損傷の原因の推定や応急復旧までの手順等について発表しました。短期間の通行規制で復旧できたのは、市中在庫による応急復旧と本復旧を分けて進めたことにあると当時の状況を振り返りました。

**さらに頼れる「道の駅」へ！！～みんなの安心スペースを目指して～ 道路環境課 佐藤主査**



佐藤充弘主査

道の駅は、東日本大震災津波の際、施設そのものが被害を受けながらも、緊急避難者の受け入れや被災地の救援基地などの役割を果たしました。道路環境課の佐藤充弘主査は、震災を受けての道の駅の新たな課題と対応策等について発表しました。

発表の中では、自立型電源の確保や情報提供設備の強化、トイレ施設の強化などを強化すべき項目として挙げ、道の駅「遠野風の丘」における現在の検討状況について説明しました。

**ワークショップを活用した橋梁付属施設の景観整備 県南広域振興局土木部 今野技師**

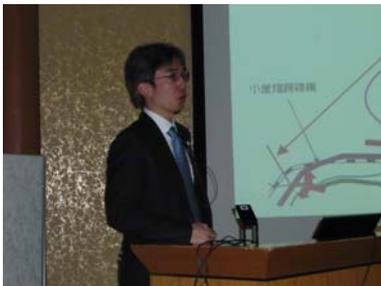


今野弘雄技師

県南広域振興局土木部の今野弘雄技師からは、一般国道 397 号小谷木橋架替えに伴う景観検討について発表がありました。

今年度は詳細デザイン検討委員会とワークショップを立ち上げ、ワークショップでは地域住民や中学生の意見等も取り入れながら、バルコニーや橋詰広場などの検討を行っています。今年度の成功の鍵として、ファシリテーターの活用のほか、現場調査によるスケール感の体感することなどを挙げました。

**国道 282 号の冬期安全確保について 岩手土木センター 鶴巻主任**



鶴巻武人主任

岩手土木センターの鶴巻武人主任は、平成 22 年 12 月 31 日の豪雪により国道 282 号荒屋新町地区（八幡平市）で最大 15km の渋滞が発生したことを受け、冬期の安全対策について発表しました。

当該地区は、人家連担部のほか地形的な制約のため現道拡幅やバイパス整備も困難となっています。発表では、渋滞の原因が堆雪による大型車のすれ違いができないことなどにあるとして、ロータリー式一方通行による除雪の手法や想定される効果を提言しました。

**「遠野が結ぶ復興への道」推進事業について ～遠野かっぱロードと遠野かっぱ工事隊～ 遠野土木センター 及川主査**



及川郷一主査

建設業協会遠野支部は、震災直後から約半年間、釜石市や大槌町のガレキ撤去作業や行方不明者の捜索などの活動を続けてきました。

遠野土木センターの及川郷一主査は、これらの活動が広く知られていない現状から、建設業界のイメージアップの重要性を説き、遠野かっぱ工事隊と遠野かっぱロードの誕生について発表しました。これらの活動は、建設業界や遠野のイメージアップだけではなく、建設業協会のモチベーションの向上にもつながっています。

復興県土づくりシンポジウムは、県土整備部に応援職員として派遣されている青森県や埼玉県などの派遣元の職員にも御案内し、聴講していただきました。

出席者からは「震災からの復旧・復興の取組をはじめ、岩手県の実情を知る良い機会になった」とのコメントもいただきました。今後もこのような取組を通じて、本県の情報を発信するよう取り組んでいきます。